

# 事業の状況

## 金融経済環境

当中間期の我が国経済は、金融の量的緩和を背景に円安・株高が維持され、公共投資や住宅需要の拡大など、景気は回復傾向にあります。一方で、新興国の経済成長の減速や消費税引き上げ後の消費者心理の冷え込みなど、先行きには懸念も残ります。

当行が主要な営業基盤としている北部九州においても、公共工事や住宅着工の好調により景況感が改善してきております。

他方、金融業界では、資金運用利回りが低下するなど、金融機関を取り巻く環境は厳しさを増す中、金融機関相互の競争はますます激しいものとなっております。

## 平成25年度中間期の業績等

このような経済情勢の中で、グループ役員一同総力をあげて業績の一層の進展と経営の効率化に努めてまいりました。平成25年度中間期の業績は次のとおりです。

### ◆預金、貸出金等

当行単体の財政状態につきまして、平成25年9月末の譲渡性預金を含めた預金等は前中間期末比では526億円増加し、前期末比では47億円減少の1兆9,599億円となり、預金以外の個人預かり金融資産残高は前中間期比173億円増加し、前期末比でも91億円増加の2,845億円となりました。

総貸出金残高は前中間期末比88億円増加し、前期末比では5億円減少の1兆2,453億円となりました。

有価証券につきましては、平成25年9月末残高は前中間期末比では412億円増加し、前期末比でも489億円増加の6,477億円となりました。

### ◆収益状況

当行単体の業績は、経常収益で前中間期比14億9百万円増加の222億77百万円、経常利益で前中間期比43億円増加の50億96百万円、中間純利益で前中間期比32億79百万円増加の33億60百万円となりました。

利益の大宗をなす資金利益につきましては、運用利回りの低下により、前中間期比6億54百万円減少の125億76百万円となりましたが、有価証券等の市場取引に係る収益が増加したことや与信関係費用が減少した結果、経常利益及び中間純利益は増加しました。

### ◆当行グループの業績

当行および連結子会社の業績は、連結経常収益で前中間期比15億58百万円増加の227億85百万円となり、連結経常利益で前中間期比45億99百万円増加の55億4百万円、連結中間純利益で前中間期比32億87百万円増加の33億84百万円となりました。

当行および連結子会社の財政状態につきましては、平成25年9月末の譲渡性預金を含めた預金等は前中間期末比523億円増加し、前期末比では49億円減少の1兆9,534億円となり、総貸出金残高は前中間期末比88億円増加し、前期末比では5億円減少の1兆2,453億円となりました。

また、平成25年9月末の連結自己資本比率（国内基準）は、前中間期末比0.21%ポイント上昇し、前期末比でも0.24%ポイント上昇の11.84%となりました。